

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開実用新案公報 (U) (11)実用新案出願公開番号

実開平5-70520

(43)公開日 平成5年(1993)9月24日

(51)Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 6 1 C 15/04

A 7108-4 C

審査請求 未請求 請求項の数1

(全2頁)

(21)出願番号 実願平4-24253

(22)出願日 平成4年(1992)3月3日

(71)出願人 592084255

伊藤 ゆかり

埼玉県狭山市根岸21番地 根本ハイッ101  
号室

(72)考案者 伊藤 ゆかり

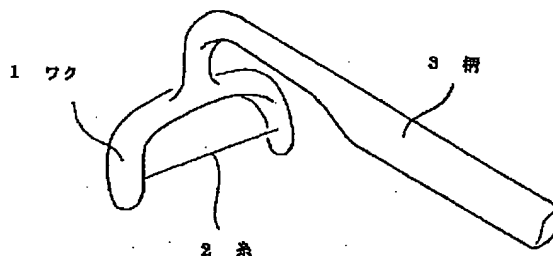
埼玉県狭山市根岸21番地 根本ハイッ101  
号室

(54)【考案の名称】 T字型の糸のようじ

(57)【要約】

【目 的】 この考案は、奥歯と奥歯のすき間も掃除できるようにするため、糸のようじ全体をT字型にした、糸のようじに関するものである。

【構 成】 U字型の弾力性のワク(1)に、糸(2)を張り、ワク(1)の頂点付近に、ワク(1)および糸(2)と垂直になるよう、弾力性の柄(3)を設ける。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 (イ) 弾力性のワク (1) に、糸 (2) を張る。

(ロ) 弾力性のワク (1) に、弾力性のワク (1) および糸 (2) と垂直になるよう、弾力性の柄 (3) を設ける。

以上の構成によりなる、T字型の糸のようじ。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案の斜視図

【図 2】 従来品の平面図

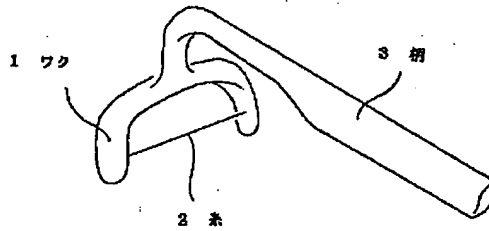
【符号の説明】

1 ワク

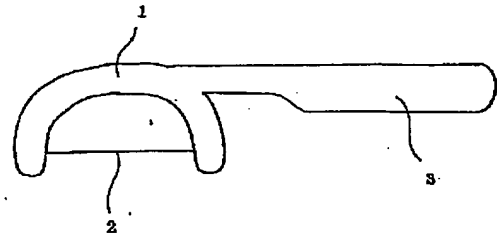
2 糸

3 柄

【図 1】



【図 2】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は、奥歯と奥歯のすき間も掃除できるようにするため、糸のようじ全体をT字型にした、糸のようじに関するものである。

**【0002】****【従来技術】**

従来、図2に示すような、糸のようじがあった。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

これは次のような欠点があった。

糸の部分と柄の部分が、平行で一直線上にある。だから、前歯と前歯のすき間には適している。

がしかし、奥歯と奥歯のすき間を掃除しようとするときは、糸のようじ本体を口の中で横にするしかなく、それは不可能であった。

本考案は、これらの欠点を除くためになされたものである。

**【0004】****【課題を解決するための手段】**

(イ) 弾力性のワク(1)に、糸(2)を張る。

(ロ) 弾力性のワク(1)の頂点付近に、弾力性のワク(1)および糸(2)と垂直になるよう、弾力性の柄(3)を設ける。

本考案は、以上のような構成よりなるT字型の糸のようじである。

**【0005】****【作用】**

弾力性の柄(3)を持ち、弾力性のワク(1)を糸(2)の部分を下にし、ながら口の中にもっていく。糸(2)の部分を、歯と歯のすき間に差し込む。

弾力性の柄(3)を持って、糸(2)の部分を、上下左右に動かすと、歯と歯のすき間のゴミを、かきだすことができる。

## 【0006】

## 【実施例】

以下、本考案の実施例について説明する。

(イ) U字型の弾力性のワク(1)に、糸(2)を張る。

(ロ) U字型の弾力性のワク(1)の頂点付近に、U字型の弾力性のワク

(1)および糸(2)と垂直になるよう、弾力性の柄(3)を設ける。

本考案は、以上のような構造で、これを使用するときは、弾力性の柄(3)を持ち、U字型の弾力性のワク(1)を糸(2)の部分を下にしながら口の中にもっていく。糸(2)の部分、歯と歯のすき間に差し込む。弾力性の柄(3)を持って、糸(2)の部分、上下左右に動かすと、歯と歯のすき間のゴミを、かきだすことができる。

## 【0007】

## 【考案の効果】

糸のようじの、糸の部分と柄の部分を垂直、つまりT字型にしてあるので、奥歯と奥歯のすき間にも、らくに糸の部分が入りこめる。だから、奥歯と奥歯のすき間もキレイに掃除でき、カスが残らず、虫歯予防にもなる。